

天皇陛下御即位記念
「いきいき茨城ゆめ国体2019」・「いきいき茨城ゆめ大会2019」の
成功に向けた決意表明

いよいよ「いきいき茨城ゆめ国体2019」が9月28日に、「いきいき茨城ゆめ大会2019」が10月12日に開催される。

本県で45年ぶりとなる国民体育大会並びに本県初となる全国障害者スポーツ大会の開催にあたっては、これまで「いばらきの魅力」を全国に発信する絶好の機会として、県民一人一人が郷土に誇りをもち、創意工夫を凝らした大会となるよう、県や市町村、競技団体等、そして県民が一体となって、両大会の開催準備や、来県者を迎え入れる体制の整備と機運醸成などに取り組んできた。

県議会においても、平成28年に国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会を設置し、およそ2年半にわたる調査・検討を行い、両大会の成功等に向けた施策の基本方向を取りまとめ、知事はじめ執行部に対し提言を行ったところである。

さらに、本年は、全議員からなる国体・障害者スポーツ大会推進協議会を設置し、県議会及び議員の行動指針を定め、国体に関連した初の全国大会となるeスポーツをはじめとした文化プログラム、デモンストレーションスポーツ、各種イベントに参加するなど、議員自ら率先して両大会の機運醸成と成功に向けた活動を進めてきた。

国体については、本年1月に冬季競技が開催され、茨城県は男女総合、女子総合ともに全国3位となり、中長期的な競技力向上の成果が形となって現れるなど、天皇杯、皇后杯獲得に向けて大きな弾みとなっている。夏季競技においても既に一部の会期前競技が始まっており、きたる本大会の開催に向け一層の盛り上がりが見込まれる。

全国障害者スポーツ大会については、競技やイベント等を通して、障害のある人もない人も全ての参加者が可能性にチャレンジし、思いやりの心や感動と希望を共有できる大会を目指し取り組みを進めてきた。今大会における様々な取り組みを契機に、誰もが互いに助け合い幸せに暮らせる「共生社会」づくりを、この茨城から発信するため、大会を大いに盛り上げていかなければならない。

また、両大会の成功に向けた取り組みにとどまらず、来年は東京オリンピックのサッカー競技が本県で開催されることなどを踏まえ、両大会の成果が、将来にわたって本県スポーツの振興、観光や地域の活性化に活かされるよう、大会後を見据えた取り組みにも努めていく必要がある。

晴れやかなる令和元年、両大会には「天皇陛下御即位記念」の冠称が付与され、御即位された天皇陛下をお迎えする初めての大会となる。両大会のスローガン「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」のとおり新たな時代にふさわしい大会となるよう、茨城県議会は、両大会の成功と、本県の更なる飛躍に向け、県民とともに全力で取り組むことを表明し、本協議会の決意表明とする。

令和元年9月10日

茨城県議会 国体・障害者スポーツ大会推進協議会